

<「知るっば!久留米」 令和2年12月31日(木) 12:30~放送分>

有馬火消し ～第4回～ 「受け継ぐ有馬火消しの伝統」

<ゲスト：久留米市消防団 副団長 合戸滋さん、梯子隊隊長 佐古さん、副隊長 前岡さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

12月第5週目の今週は、『受け継ぐ有馬火消しの伝統』をテーマにお送りします。

ゲストは、この方です。

ゲスト:合戸さん(以下「合戸」)

久留米市消防団副団長の合戸滋です!

ゲスト:佐古さん(以下「佐古」)

同じく、久留米市消防団第16分団所属、梯子隊隊長の佐古です。

ゲスト:前岡さん(以下「前岡」)

同じく、久留米市消防団第11分団所属、梯子隊副隊長をしております前岡です。

坂本 今日3人がお越しいただいております。

この「知るっば久留米」始めて以来の大人数でございます。

今週が、有馬火消しシリーズの最終回ということになっていまして、

前回までは、どちらかというと歴史上のお話をしてきて、その歴史が今につながるという話から、

今回は『受け継ぐ有馬火消しの伝統』がテーマです。

久留米で有馬火消しの伝統を引き継いでいるのが、久留米市消防団のみなさまです。

その中でも特に伝統を受け継いでいるのが、有馬火消し梯子隊ですね。

年始の出初め式で、梯子に上ってポーズを決める勇壮な姿をご覧になった方も多くいらっしゃると思います。

まずは、有馬火消し梯子隊の状況について教えてください。

合戸 有馬火消し梯子隊は、久留米消防団1496名のうち乗り手が17名(うち女性2名)です。

そして、約8メートルの梯子が3本あり、梯子1本につき鳶口(とびくち)12名、纏(まとい)3名、梯子係2名の計17名がいます。

その梯子が3本ありますので51名となり、乗り手と合わせて計68名です。

これを称して「有馬火消し梯子隊」と言います。

なお、演技の危険性から乗り手17名は固定メンバーで、梯子の51名は水の祭典の前に

各分団から募集しております。
これが有馬火消し梯子隊の現状です。

坂本 乗手の方は、やはり固定メンバーなんですね。それはそうですね。
あれだけ高度な技を披露いただくので、なかなか訓練も大変だろうと思います。
私なんか高所恐怖症なので、下から見ているだけでも怖くなってしまいます。
実際にどんな訓練をされているのか、ここからは実際に演技を披露して下さっている梯子隊の隊員さんや隊長さんもお見えになられていますので、お話を伺いたと思います。
有馬火消し梯子隊のみなさんは、消防団としての活動をしながら梯子隊の活動もなさっているとお聞きしていますが、日ごろの活動や訓練、披露の場について教えてください。

佐古 梯子隊の披露の場は、みなさんよくご存じだと思いますが、8月の水の祭典久留米まつりで、明治通りを行進しながら途中で梯子を立てて演技をする機会と、夜のグランドフィナーレ、そろばん踊りが終わった後の最後に、スポットライトを浴びて演技をさせていただいております。

坂本 昼と夜の両方で披露されているわけですね。

佐古 そうですね。それから、消防団最大の行事である出初め式の場で、来賓のみなさま、市民のみなさまの前で演技を披露させていただいております。

坂本 寒い中大変ですね。

佐古 そうですね。夏とはまた全然違いますね。
さらに、消防協会が主催で防災イベントがありますが、その時に演技の要請があればやることになっていますので、年間3度は披露する機会がございます。
披露前の訓練につきましては、先ほども言いました本番前の10日間で行っています。

坂本 練習は、10日間ぐらいでできるのですか？

佐古 みんな普段は仕事をしていますので、長期間だとどうしても隊員の負担になりますので。

坂本 みなさんお仕事をされながら、梯子隊をされていますからね。

佐古 大体10日間のうち最初の6日間は、乗手だけで個々のレベルを上げるような練習をしています。
残りの4日間は、梯子、纏、鳶口さんたちに集まっていただいて、
本番さながらの合同訓練を4日間やって、本番を迎えるということになります。

坂本 10日間の練習であれだけの技ができるというのは本当にすごいことだと思うのですが、その他にもそれぞれで練習をされていたりするんですか？

- 佐古 そうですね。あとはもう個々での練習となります。
- 実際、梯子がないとできない技もあるんですが、考え方、やり方によっては、梯子なしでも練習できることもあります。
- 例えば、膝掛け八艘（ひざかけはっそう）と言いまして、梯子のてっぺんに片膝を乗せてバランスをとる技があるんですが、それも家庭のテーブルの角にジュースの空き缶を置いて、それを梯子のてっぺんに見立てて膝を乗せてバランスをとるとかですね。
- やろうと思えばできるので、そういった練習を各自でやるようにしています。
- 坂本 普段の努力や練習が積み重なって、さらに合同練習があって本番に臨むという念の入った話ですよ。でも、そうじゃないとなかなかできないですよ。
- そういった梯子隊の技は、「引き継いだ技」あるいは「新しく考えた技」など色々な技があると思いますが、実際はどのようにその技の練習をしたり、引き継がれたりしているのですか？
- 前岡 基本は歴代の先輩方が考えた技を継承しつつも、伝統の技に負けないように、今のメンバーでアレンジを加えて新しい技を作っています。
- 坂本 先輩方から教わる技もあり、それを引き継ぐときにはアレンジを加えたり、改良したりすることもあるということですね。
- その技の練習や引き継ぎは、1対1で教えているんですか？
- 前岡 マンツーマンで教えるときもありますが、乗り手は17人いますので、みんなで協力しながら練習をしております。
- 坂本 乗り手全員で様々な技をお互いに教え合ったり、あるいは考えたりなさっているんですね。
- ところで、有馬火消し梯子隊の梯子って、かなり高いですけど、何メートルぐらいあるんですか？
- 前岡 梯子の高さは、約8メートルですね。
- 坂本 あの長い梯子って竹で出来ているんですが、売っているのは見たことがないですよ。
- あの梯子って、どうやって手に入れているんでしょうか？
- 佐古 みなさんもあの梯子をそういう視点で見たことがないと思いますが、実はあの梯子は、全て私たちの手作りなのです。
- 昔の先輩たちの話を聞くと、梯子隊が発足した当時は、大工さんとかに頼んで作ってもらっていた時代もあったようです。
- でも、やっぱり私たちが求める梯子がなかなかできないということもあり、先ほどの技と同じように、博多など自分たちで梯子を作っているところで作り方を教えてもらって、その技術を持ち帰って自分たちで作るようになったと聞いております。
- なので、梯子作りも私たちが引き継いでやっています。

坂本 梯子作りでも伝統が継承されているわけですね。
毎年、年末は火災予防週間で、消防団のみなさんも積極的な活動をなさっていると思います。
改めて、副団長の合戸さんから市民のみなさまにメッセージをお願いします。

合戸 久留米市消防団は、年3回の夜警、各種訓練、消防署各出張所との合同訓練、ポンプ操法大会、
災害時の避難所開設の広報活動、内水氾濫による水門閉鎖の広報活動、風水害の警戒、
火災時の出動など多岐にわたって活動しております。
なお、久留米市消防団は、定数1587名のうち実働が1496名で、定員割れしております。
市民のみなさま、是非久留米市消防団への参加をよろしくをお願いします。

坂本 最後に力強いお言葉、ありがとうございました。
そして、有馬火消し梯子隊のみなさん、興味深いお話をありがとうございました。
今月は、有馬火消しをテーマにお話をお送りしてきました。
有馬火消しは、久留米市が全国に誇れる伝統であり文化だと改めて認識いたしました。
そして、消防団のみなさまによって未来に受け継がれていく文化でもございます。
今日は、どうもありがとうございました。